



暑さに負けない農業を目指す!

農業総合研究センターの適応策最前線

宇都宮の年平均気温は100年あたり2.53℃の割合で上昇しています。地球温暖化に伴い、農産物の品質低下や病害虫の発生など、様々な影響が顕在化してきています。これらへの対応に奮闘する「栃木県農業総合研究センター」の取組を紹介します。

いちご



夏秋季の高温により、開花の遅れや病害虫の多発が懸念されます。これらの影響により、収量や品質が低下するおそれがあります。



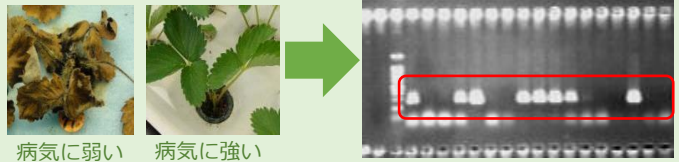
とちあいか



耐暑性や耐病性に優れた品種が持つDNAを調べ、選抜することで、品種開発のスピードアップを図っています。



有用形質(病気に強い等)個体のみが持つDNA配列を検出し、苗のうちに選抜します



病気に強い個体が持つDNA配列を検出

病気に弱い 病気に強い

なし



夏季の高温や強い日射により、果実の日焼けや果肉障害が発生しています。さらに、暖冬の影響で開花が早まり、晩霜に遭遇することで花が枯死し、結実不良となることも問題となっています。



▲高温による果肉障害

▲霜による火ぶくれと実に残った傷



ミカン栽培の被覆資材を活用した高温対策の検証をしています。



防霜ファンと多目的防災網等の併用による晩霜害防止効果の検証をしました。



対策の組合せ	昇温効果
防霜ファンのみ	+0.7℃
燃焼法のみ	+0.4℃
防霜ファン+燃焼法+網かけ	+1.8℃
防霜ファン+燃焼法	+1.2℃
燃焼法+網かけ	+1.2℃

農業総合研究センターは 創設 130 周年



そのほかにも、さまざまな品種や技術による「適応」を進めています。

- ◆ 高温による品質低下(白未熟粒)の少ない 水稻品種「とちぎの星」の開発
- ◆ 二条大麦の凍霜害リスクが下がる「秋播性」の特性を持つ品種の育成
- ◆ トルコギキョウの「短茎早期開花」(高温により草丈が短く早期に開花すること)への対策技術の開発 など



▲二条大麦



▲とちぎの星

トルコギキョウ▶



最新の情報は

栃木県農業総合研究センターニュースを見てね!



農研センターニュース(県HP)

栃木県気候変動適応センター【事務局：栃木県環境森林部気候変動対策課 ☎028-623-3187】

気候変動とその影響、気候変動影響による被害を回避・軽減するための適応策に関する情報はセンターHPを御覧ください。

(<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/tochi-tekiou.html>)

HP▶



◀ X(旧 Twitter)